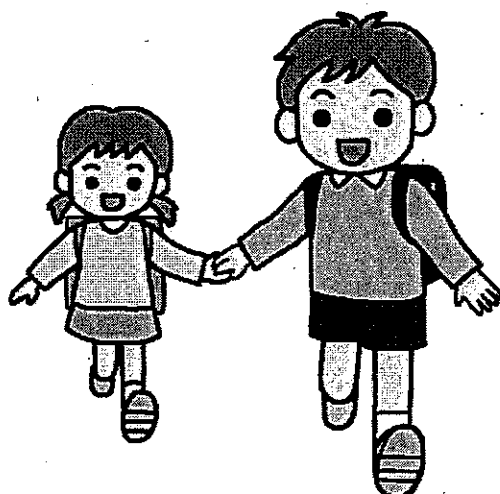


水俣市教育委員会点検・評価報告書

(平成29年度実績)



平成30年12月

水俣市教育委員会

## 目次

教育委員会の点検・評価について	1
教育委員の活動状況	3
点検・評価の結果について	
安全・安心な学校施設の整備・充実	4
学力向上対策事業	6
いじめ・虐待・不登校児童生徒対策事業	8
環境教育（学校版環境ISO等）の推進	10
給食センターにおける食育・地産地消推進事業	12
人権教育推進事業	14
文化会館自主文化事業	16
みなまた環境絵本大賞事業	18
公民館自主事業	20
生涯スポーツ活動及び競技スポーツ活動の推進	22

# 教育委員会の点検・評価について

## 1 はじめに

水俣市教育委員会では、教育行政を効果的に推進していくこと、また市民への説明責任を果たすことを目的として、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行い、その結果の報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとしています。

この報告書は、これに基づいて点検・評価を行ったものです。

## 2 点検・評価の対象

点検・評価は、水俣市教育委員会の権限に属する事務のうち、次に掲げるものを対象としています。

- (1) 水俣市総合計画に掲載された事業
- (2) 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業

## 3 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項の規定による有識者の知見の活用については、教育委員会事務局が行った点検・評価（自己評価）の結果について、点検評価委員2名から意見聴取（外部評価）をしています。

## 教育委員の活動状況について

### 1 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回の定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催しています。  
平成29年度の開催状況は次のとおりです。

- (1) 教育委員会定例会 12回
- (2) 教育委員会臨時会 2回

### 2 審議等の件数

#### (1) 審議事項 57件

審議内容	件数
規則、訓令等の制定又は改廃に関する事	15
職員及び付属機関の委員の任免、その他の人事に関する事	8
議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する事	1
その他	33

※その他…教科書採択、奨学生の決定、後援の承認など

#### (2) 協議事項 29件

学校教育努力目標、次回の会議の開催日時など

#### (3) 報告事項 35件

市議会報告、学校教育活動に関する月例報告、催し物の結果報告など

### 3 水俣市教育委員名簿

平成30年3月31日現在

職名	氏名
委員 (教育長職務代理者)	荒木 由紀子
委員	河田 奈保子
委員	山田 誠次
委員	堀 浄信
教育長	(不在)

※旧教育長 吉本哲裕氏 平成30年2月21日をもって退職。

新教育長 小島泰治氏 平成30年4月2日付就任。

#### 4 点検・評価の流れ

	流れ	実施者	実施時期	実施内容
①	事業選定	担当各課	4月～5月上旬	点検及び評価の対象事業を選定
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">事業実施</div>				
②	自己評価	担当各課	3月下旬	選定事業について、実施状況評価表を作成
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">次年度</div>				
③	外部評価	点検評価委員	8月中	実施状況評価表について点検評価委員の意見聴取
④	最終評価	教育委員	9月～10月	点検評価委員の意見を付した実施状況評価表について、総評という形で教育委員より意見を聴取
⑤	とりまとめ	事務局	11月	点検及び評価の結果をとりまとめ、報告書を作成
⑥	提出・公表	教育長	12月	報告書を議会に提出し、HPで公表

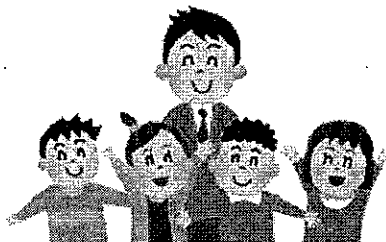
#### ※点検評価委員

- ・教育に関し学識を有する者
- ・任期は3年

#### ○地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。



政策事業名	01	安全・安心な学校施設の整備・充実
種別	1. 総合計画による重点事業    2. 市長マニフェストによる事業    3. その他の重要政策	

1. 政策の目的・目標（複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること）

学校施設は、多くの児童生徒等が一日の大半を過ごす場であり、また非常災害時には地域住民を受け入れ、避難生活の拠り所として重要な役割を果たす施設であるため、児童生徒をはじめ、そこに集まる人たちが安全・安心かつ快適に過ごすことができるように学校施設の環境改善（構造体・非構造部材の耐震化、トイレ改修、空調設備設置等）に取り組む必要がある。

耐震化に関しては、平成21年度より小中学校施設の耐震化を進めており、平成24年度までに構造体の耐震化、平成27年度までに体育館天井材（非構造部材）の耐震化を完了した。しかし、校舎の内外壁、照明器具といった非構造部材については、耐震対策が万全ではなく、今後も平成25年度に策定した「非構造部材耐震化計画」に基づき、学校施設の安全対策を進めていく。

また、トイレ改修に関しても、怪我や障がいをもった児童・生徒等が利用しやすいよう順次改修を進めていく。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H29年度	増減
	778	(平成28年度繰越) 76,517 (平成29年度当初) 1,593 (平成30年度へ繰越) 77,815	

(2) 【活動目標】

	前年度	H29年度
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>袋中学校管理・普通教室棟外壁補修工事</li> <li>水東小学校及び水俣第二中学校トイレ改修設計・工事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【平成28年度繰越】</li> <li>袋中学校管理・普通教室棟外壁補修工事</li> <li>水東小学校及び水俣第二中学校トイレ改修工事</li> <li>【平成29年度当初】</li> <li>袋中学校特別教室棟外壁補修工事</li> <li>湯出小学校及び久木野小学校トイレ改修設計・工事</li> </ul>

■H29年度活動目標の説明（事業として何をするか）

【平成28年度繰越】 袋中学校管理・普通教室棟の校舎外壁において、落下の危険性の高いものは撤去、撤去できないものについては補修等を行い、児童生徒の安全を確保する。また、水東小学校・水俣第二中学校のトイレについては、便器の洋式化及び床の乾式化等を行う。

【平成29年度当初】 袋中学校特別教室棟の校舎外壁において、落下の危険性の高いものは撤去、撤去できないものについては補修等を行い、児童生徒の安全を確保する。また、湯出小学校・久木野小学校のトイレについては、便器の洋式化及び床の乾式化等を行う。

(3) 【実績】

	前年度	H29年度
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>水東小学校及び水俣第二中学校トイレ改修設計完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【平成28年度繰越】</li> <li>袋中学校管理・普通教室棟外壁補修工事 完了</li> <li>水東小学校及び水俣第二中学校トイレ改修工事 完了</li> <li>【平成29年度当初】</li> <li>湯出小学校及び久木野小学校トイレ改修設計 完了</li> </ul> <p>なお、袋中学校特別教室棟の外壁補修工事、湯出小学校及び久木野小学校トイレ改修工事については次年度へ繰り越した。</p>

■H29年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

【平成28年度繰越】 平成29年9月に水東小学校及び水俣第二中学校トイレ改修工事が竣工、平成29年10月に袋中学校管理・普通教室棟外壁補修工事が竣工し、予定通り事業が完了した。

【平成29年度当初】 財源となる国の学校施設環境改善交付金の採択が、袋中学校特別教室棟外壁工事は平成29年8月16日、湯出小学校及び久木野小学校トイレ改修設計・工事は平成30年1月16日であったことから、平成29年度中に執行できたのは湯出小学校及び久木野小学校トイレ改修設計のみで、工事に関してはいずれも平成29年度内の事業完了が困難となり、平成30年度に繰り越した。

したがって、年度目標の達成度については事業費ベースで50.1%となった。

### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由				
○	想定以上に成果があがった	4	平成28年度繰越分は事業完了したが、平成29年度当初分の事業を次年度へ繰り越したため				
	想定どおりの成果であった	2					
	想定を下回った	0					
	想定を大きく下回った	-1					
(2) 効率性		点数	理由				
○	大変効率よくできた	3	平成28年度繰越分は事業完了したが、平成29年度当初分の事業を次年度へ繰り越したため				
	概ね効率よくできた	2					
	効率がよくなかった	1					
	全く効率が悪かった	0					
【総合評価】							
A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)		<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>点数</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>1点</td> </tr> </table>	評価	点数	D	1点	
評価	点数						
D	1点						
B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)							
C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)							
D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)							

### 4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
平成28、29年度のように事業の財源となる国の学校施設環境改善交付金の採択状況によって、事業の進捗に遅れが生じてしまうことが課題である。 なお、方向性としては維持とし、今後も計画的に非構造部材の耐震性の確保に努めていく。					
(2) 改善・見直しの具体的内容	平成3・4年までの長期計画をもとに実施しているが、学校施設の特異性(地域住民の応急避難場所としての機能等)を念頭に、常に財政課と協議しながら、事業の前倒しを提案していく。				

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
最近、交付金の採択期日の関係で事業が次年度に繰り越されることが続いている。学校施設は児童・生徒の人命を守ると共に、日頃の教育活動に支障がないよう、速やかな整備が必要と考える。交付金の採択状況によって、事業の実施が左右されることのないよう、何らかの手立てがないか検討していただきたい。					

### 6. 総評

交付金の採択の関係で事業が繰越されてはいるが、計画的に進められている。可能ならば事業計画を前倒して整備を進めてほしい。子どもたちの安全確保は最重要課題なので、学校訪問等の折に、学校が作成している安全点検票を確認し、設備等を見回るなど、学校施設の現状把握に努めてほしい。

政策事業名	02	学力向上対策事業
種別	1. 総合計画による重点事業    2. 市長マニフェストによる事業    3. その他の重要政策	

1. 政策の目的・目標（複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること）

水俣市の児童生徒の学力向上は、保護者も市民も指導する教師も願うところである。水俣市学校教育3つの努力目標を「学びの心をもつ子ども、育ての心をもつ教師、はずむ心のある学校」と設定し、その実現に向けて、各学校では、学校や地域の実態に即して教育目標を定め、適切な教育計画のもと、具体的な実践をとおして、教育目標達成の実現に努めている。児童生徒の学力向上に向けて、教師の資質向上や授業力向上、地域とともにある学校運営をめざし、多角的に目的・目標に迫るよう事業を推進する。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H29年度	増減
	3,017	2,944	△73

(2) 【活動目標】

	前年度	H29年度
目 標	<p>学力向上宣言を見直し、児童生徒の実態に即した内容に改めるとともに、活用方法を検討する。学力向上委員会の構成員について、次年度も現在の小学校教諭の割合を維持する。</p>	<p>・学力向上宣言は、平成30年度からの新学習指導要領に沿った内容で見直しを図る。                  ・全国学力・学習状況調査及び熊本県学力調査を起点とした改善検証サイクルに基づき、具体的実践とその評価を実施し、児童生徒の学力向上を図る。                  ・熊本県学力調査で、各学年の児童生徒の学力が県平均以上となるように、教師の授業力向上を図る。</p>

■H29年度活動目標の説明（事業として何をするか）

- ・学力向上宣言見直しのために、文部科学省や熊本県教育委員会等の情報収集を図り、各種調査の結果等から本市の課題を明らかにするとともに、改善方策を設定する。
- ・学力向上研究推進指定校（袋小学校）において、児童の確かな学力を育成する実践的な研究を発信する。
- ・学校図書館活用研究推進校（水東小学校、袋中学校）において、図書館の活用、児童生徒の読書習慣の形成等についての実践的な研究を発信する。

(3) 【実績】

	前年度	H29年度
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育改革プロジェクトの学力向上委員会、水俣科・学校開放推進委員会、道徳教育推進委員の3つの委員会で、事業推進を行った。</li> <li>・学力向上研究推進指定校（袋小）が中間発表会を開催した。</li> <li>・第12回みなまた教育フォーラムの実施</li> <li>・年3回の教育セミナーの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育改革プロジェクトの授業力向上委員会、ふるさと学習資料作成委員会、の2つの委員会で、事業推進を行った。</li> <li>・学力向上研究推進指定校（袋小）が、1月に研究発表会を開催した。</li> <li>・図書館活用教育研究推進校（水東小学校・袋中学校）が、10月と2月に研究発表会を開催し、研究成果を市内外の学校へ発信した。</li> <li>・第13回みなまた教育フォーラムの実施</li> <li>・年2回の教育セミナーの実施</li> </ul>

■H29年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

- ・授業力向上委員会では、次年度から小学校で先行実施する「外国語科・外国語活動」について、指導内容・指導計画・環境整備・指導力向上等について研究し、フォーラムで報告・発信した。また、ふるさと学習資料作成委員会では、「水俣市環境学習資料集」を改訂するため、2回の公開授業を通して検証を重ねるとともに、フォーラムにおいて題材検討を行った。公開授業には、県内各地からの参加があった。
- ・袋小学校は「全員で力を高める『学び合いの授業』を目指して」、水東小学校は「主体的・協働的に学ぶ子どもの育成」、袋中学校は「確かな学力の向上を目指して」をそれぞれテーマとして、2年間の研究及び実践内容を発表会で発信した。
- ・年2回の教育セミナーでは、不登校対策について、英語教育の充実についてのテーマで講演会を開催した。



### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由				
○	想定以上に成果があがった	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県学力調査における各教科の領域や観点の項目で県平均を上回ったものは、小学校53.3%、中学校58.3%であった。教科間や学年間に、定着率の差があった。</li> <li>・教育セミナーでは、喫緊の教育課題に係る内容を提供し、協議や演習をとおして、資質・技能の向上を図った。</li> </ul>				
	想定どおりの成果であった	2					
	想定を下回った	0					
	想定を大きく下回った	-1					
(2) 効率性		点数	理由				
○	大変効率よくできた	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育改革プロジェクト会議は、体制を刷新し、計画にそって進めることができた。</li> <li>・みなまた教育フォーラム、教育セミナーともに教職員の満足感が高かった。フォーラムでは、演習や協議を設定し、資質及び指導力向上につなげることができた。</li> </ul>				
	概ね効率よくできた	2					
	効率がよくなかった	1					
	全く効率が悪かった	0					
【総合評価】							
A かなりの成果を上げ、今後も維持できるような努めるもの (7~6点)		<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>点数</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>4点</td> </tr> </table>	評価	点数	B	4点	
評価	点数						
B	4点						
B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)							
C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)							
D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)							

### 4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県学力調査結果における教科間差や学年差を解消するための方策を検討する必要がある。</li> <li>・新学習指導要領 (小学校平成32年度から、中学校平成33年度から) に対応した、学力向上宣言 (仮称) をとりまとめ、対策検討及び実践を図る必要がある。</li> <li>・若手の教職員が増加してきており、資質及び指導技能を高める研修を行う必要がある。</li> </ul>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上委員会の研究内容を見直し、学力向上宣言 (仮称) や授業改善策等を研究協議する。</li> <li>・みなまた教育フォーラム、教育セミナーの内容等を見直し、教育課題への対応を図るための体制整備を行う。</li> <li>・学力向上研究推進校及び学校図書館活用教育研究推進校を新たに指定し、その成果を発信する。</li> </ul>					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>児童生徒の学力は、保護者・地域社会の要望や関心が大きい事項である。児童生徒の日頃の努力とともに、教員の授業力向上を望みます。しかし、指導技能向上のための研修等が、教員の多忙化に一層拍車をかけるのではないかと心配な面もある。働き方改革を実効性あるものにして、教員がじっくり子どもたちに向き合える時間や、心のゆとりを保障してほしい。</p>					

### 6. 総評

水俣市における「学力」とは何を意味するのか、しっかりと共通理解を深めたうえで、教科間差、学年・学校差等を解消するための対策を検討し、児童生徒の学力向上に尽力してほしい。そのためにセミナーの内容の見直しや、全教職員が聴講できる講演等を実施し、教職員の指導力向上を図る必要がある。また、水俣市における「学力」の充実には学校教育と社会教育の有意な連携が重要と考える。

政策事業名	03	いじめ、虐待、不登校児童対策事業
種別	1. 総合計画による重点事業	2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策

1. 政策の目的・目標 (複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること)

不登校、いじめ、虐待の問題を抱える本市の児童生徒の自立を支援するため、関係機関との連携を強化しながら課題解決に努める。そのために、子ども自立支援室を中心とした取組を段階的に発展させ、関係機関のネットワークの構築を図りながら取組を進める。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H29年度	増減
	2,858	2,701	△157

(2) 【活動目標】

	前年度	H29年度
目標	子ども自立支援室や関係機関などのネットワークを深め、不登校児童生徒への効果的な取組を行う。 自立支援事業連絡協議会において、不登校、いじめ、虐待の3つの部会で推進を図る。	子ども自立支援室や関係機関などのネットワークを深め、不登校児童生徒への効果的な取組を行う。 自立支援事業連絡協議会において、不登校、いじめ、虐待の3つの部会で推進を図る。

■ H29年度活動目標の説明 (事業として何をするか)

- 子ども自立支援室において、各学校に在籍する不登校・不登校傾向の児童生徒を所属校と連携して支援する。
- 自立支援事業連絡協議会において、不登校対策部会、いじめ防止部会、虐待防止部会の3つの部会で各学校の実態、早期発見・早期解決の取組を紹介するとともに、積極的な具体策を検討する。
- 中学校ブロックで、地域にいじめ等の情報を提供し、学校と地域が連携して取組を行うために「中学校ブロックいじめ対策委員会」を充実する。

(3) 【実績】

	前年度	H29年度
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども自立支援室指導員による児童生徒の支援体制が充実した。</li> <li>自立支援事業連絡協議会において、いじめ、虐待、不登校の3つの部会で、未然防止や早期発見・早期解決について対策を検討することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども自立支援室指導員による、児童生徒の所属校と連携した支援が充実し、学校復帰する児童生徒が増えた。</li> <li>自立支援事業連絡協議会において、教育事務所所属のSC・SSWや児童養護施設専門職員や小児科医を委員として招聘し、不登校、いじめ、虐待の3つの部会で、未然防止や早期発見・早期解決について対策を検討・共有することができた。</li> <li>中学校ブロックいじめ対策委員会に教育相談員を派遣し、情報を共有するとともに、指導助言を行った。</li> </ul>

■ H29年度実績の説明 (目標に対してどの程度達成したか)

- 子ども自立支援室において、不登校・不登校傾向の児童生徒を継続的に支援した。
- 自立支援事業連絡協議会において、水俣市の不登校、いじめ、虐待の状況を報告し、未然防止や早期発見・早期解決の取組について共有・検討しながら対策を図った。
- 8月に市内全小中学校の児童会生徒会が参加し、水俣高校の参加協力を得て、合同リーダー研修会を実施した。その際、アクションプランを策定し、2学期から各校で児童生徒が中心となっていじめの起きにくい学校づくりの取組を行った。
- 中学校ブロックいじめ対策委員会から教育相談員に派遣依頼があり、2回指導助言を行った。

### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校及び不登校傾向児童生徒数は昨年度を下回ることができた。しかしながら、平均欠席日数は増加した。</li> <li>いじめ調査結果については、「いじめられたと回答した人数」が昨年度より増加した。学校の認知件数は減少し、解消率はほぼ同じだった。</li> </ul>
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援事業連絡協議会は、各部会にミッションを設定し、リーダーを配置したことで活性化した。</li> <li>児童会生徒会リーダー研修会は、全ての小中学校が参加し、児童生徒が中心となり、いじめの未然防止に取り組むことができた。</li> </ul>
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

#### 【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)

評価	点数
B	4点

### 4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援事業連絡協議会は、不登校対策部会に小児科医を招聘したが、業務の都合で出席ができなかった。指導助言を得る方策を検討する必要がある。</li> <li>不登校及び不登校傾向児童生徒数は減少したが、病気等の理由で欠席が多い児童生徒は増加した。病気等の理由で欠席が多い児童生徒への対応を継続し、減少させる必要がある。</li> </ul>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校対策部会に小児科医に出席してもらおうとともに、出席できない場合にも指導助言をもらえるよう方策を講じる。</li> <li>教育相談員に代えて、スクールソーシャルワーカー (SSW) を配置し、専門職の知見や経験を基に、スピード感を持って対応する。</li> </ul>					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>いじめ・不登校児童生徒等の対策は教師だけでなく、保護者、PTA、地域社会、関係機関等の連携により、一人でも少なくなるようにしたいものである。自立支援事業連絡協議会を核とした3つの部会があり、早期発見・早期解決の取組みについて情報を共有・検討しながら、対策がとられていることがすばらしい。またいじめや不登校は、当人や保護者の思いをしっかりと聞き、寄り添っていく真摯な姿勢を大切にしてほしい。</p>					

### 6. 総評

自立支援事業連絡協議会を継続してきた結果、各部会の活動に具体的な取組が行われ始めているので今後の活動にますます期待したい。「いじめの起きにくい学校づくり」の取組は、ぜひ各学校で今後も取り組んでいってほしい。不登校対策部会では、医療分野の参加者選定は、SSWの助言を得ながら進めてほしい。また、委員の中に不登校経験者やその保護者などを入れて意見を聴取していくことも大事だと思う。

政策事業名	04	環境教育（学校版環境 ISO 等）の推進
種別	1. 総合計画による重点事業 2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策	

1. 政策の目的・目標（複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること）

子どもたちが、将来、社会で生きていくために必要な「豊かな心」・「確かな学力」・「健やかな体」を取得できる学校づくりを推進するため、自然や郷土を愛し、環境への関心を高め、主体的に学ぼうとする意欲と自分の行動に責任をもつことのできる心豊かでたくましい児童・生徒の育成を図る。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H29年度	増減
	0	0	0

(2) 【活動目標】

	前年度	H29年度
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水俣病を教訓とした環境学習や学校版環境 ISO の取組の充実を図る。</li> <li>・「水銀に関する水俣条約」推進に対する社会背景や動きについて、市内中学生を中心に理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校における水俣病を教訓とした環境学習、学校版環境 ISO（水俣市版）の取組の充実を図る。</li> <li>・環境汚染や、環境汚染を防止するための取組等に関する社会の現状について理解を深めるための取組の充実を図る。</li> <li>・子どもの成長段階に応じて体系的な環境学習を実施できるよう、指導の具体例等を示した環境学習資料集の改訂を平成 30 年度にかけて行う。</li> </ul>

■H29年度活動目標の説明（事業として何をするか）

- ・水俣市学校版環境 ISO の取組の継続
- ・県事業「水俣に学ぶ肥後っ子教室」での水俣病資料館、県環境センター等での校外学習の実施
- ・環境汚染や環境汚染を防止するために取組む社会の現状等について理解を深めるため、「水銀に関する水俣条約採択事業（環境省・水俣市共催）」に関連し、水銀対策に取組む企業への現地取材、フォーラムへの参加・発表等の実施

(3) 【実績】

	前年度	H29年度
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水俣市学校版環境 ISO の取組の継続</li> <li>・熊本県環境 ISO コンクールの全小中学校参加</li> <li>・「水銀に関する水俣条約」推進のため、水銀対策に取組む企業への現地取材やフォーラムでの発表を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小中学校における水俣市学校版環境 ISO の取組継続・県環境 ISO コンクールへの参加</li> <li>・県事業「水俣に学ぶ肥後っ子教室」による校外学習の実施</li> <li>・「水銀に関する水俣条約」の推進のため、市内中学生 4 名による水銀対策に取組む企業への現地取材（大阪府）を実施し、COP1 会場で発表した。また、水俣第一小学校・水東小学校・葛渡小学校代表児童が県庁において水銀に関する研修を受講した。</li> </ul>

■H29年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

- ・学校版環境 ISO の取組を継続し、充実を図ったことにより、県環境 ISO コンクールにおいて水俣第二中学校、久木野小学校が入賞し、県内の学校に好事例として活動内容を広げることができた。
- ・県事業「水俣に学ぶ肥後っ子教室」に全小学校が取組み、水俣病について学ぶことが出来た。
- ・「水銀に関する水俣条約」推進のため、各中学校からの代表生徒 4 名による水銀対策を行う企業への現地取材の発表等や、代表小学生による熊本県での研修受講を通じて、市内小中学生が環境汚染や、環境汚染を防止するための取組等に関する社会の現状について理解を深めることができた。

### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由				
○	想定以上に成果があがった	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境 ISO の取組は各校で創意工夫がなされ、環境に優しい行動をする生活習慣として児童・生徒に定着している。</li> <li>・水俣に生まれ育つために参加可能となる、水俣条約に関する記念行事等への参加を通じて、環境への関心を高め、主体的に学ぼうとする意欲の向上に繋がっている。</li> </ul>				
	想定どおりの成果であった	2					
	想定を下回った	0					
	想定を大きく下回った	-1					
(2) 効率性		点数	理由				
○	大変効率よくできた	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校低学年から中学校まで、成長段階に合わせた取組がなされている。</li> <li>・国や県と連携して水俣病に関する学習や社会情勢に応じた環境学習を実施できている。</li> </ul>				
	概ね効率よくできた	2					
	効率がよくなかった	1					
	全く効率が悪かった	0					
【総合評価】							
A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点) B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点) C 早急の見直しが必要なもの (3~2点) D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)			<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>点数</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>7点</td> </tr> </table>	評価	点数	A	7点
評価	点数						
A	7点						

### 4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 12 年からスタートした学校版環境 ISO の取組は、環境に優しい行動をする生活習慣を児童・生徒に定着させる大切な取組として、引き続き継続していく。</li> <li>・環境学習資料集の改訂について、プロジェクト委員会を設立し、研究授業やフォーラムの分科会等を通じて検討を行うことができた。次年度の資料集作成に向けて、更なる取組の充実を図る。</li> </ul>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校版環境 ISO の取組は、各校の創意工夫内容を共有し、更なる充実を図るとともに、学校内だけにとどまらず、家庭内における実践にも繋がるよう、連携を図っていく。</li> <li>・環境学習の担当教員が、環境教育副読本とあわせて、子どもの成長段階に応じて体系的な授業を実施できるよう、指導計画等を示した環境学習資料集の改訂を平成 30 年度にかけて行い、全小中学校に配付する。</li> </ul>					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
本市の環境教育の取り組みには長い歴史があり、その蓄積されてきた莫大な成果は水俣市及び市民の宝といえる。今回は、環境学習資料集の改訂のため、プロジェクト委員会が設立され、研究授業や教育フォーラムの分科会等を通じ、内容の検討が行われるなど、今後の取組みの充実が図られている。また、「水銀に関する水俣条約」関連行事に、水俣の小中学生の代表が参加し、環境汚染や汚染防止のための理解を深めている。今後も子どもたちが環境問題に向き合う機会づくりに尽力してほしい。					

### 6. 総評

環境教育は、水俣病の教訓に学ぶ本市だからこそその取組だと思われる。学校版環境 ISO はどの学校も積極的に取り組んでいるが、ややマンネリ化の様相がある。現状に満足することなく、より良い事業としていくため、新たな提案を行い、予算を組み、事業を行っていくことも大切だと思う。

政策事業名	05	給食センターにおける食育・地産地消推進事業
種別	1. 総合計画による重点事業 2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策	

1. 政策の目的・目標 (複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること)

学校・地域・家庭と連携して、学校給食を生きた教材として食育を推進する。  
 また、生産者の顔が見える地場産食材を給食に使用し、旬の食材を使った芦北・水俣メニューなどの献立を実施して、地産地消を推進する。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H29年度	増減
	85,510	85,650	140

(2) 【活動目標】

	前年度	H29年度
目 標	1 食育の推進 食に関する指導、アレルギー対応食の実施、見学、視察、試食会、研修会の実施 2 地産地消の推進 地場産食材の増加、献立充実	1・食育の推進 食に関する指導、アレルギー対応の実施、見学・視察・試食会、研修会の実施 2・地産地消の推進 地場産食材の増加、献立充実 3・衛生管理の強化、施設の適正管理

■H29年度活動目標の説明 (事業として何をするか)

- 食育の推進として、食に関する指導やアレルギー対応食を実施し、また、見学、視察、試食会、センターまつりを実施し、給食センターを食育の拠点とした事業を展開する。
- 地場産食材を使用した給食「芦北・水俣メニュー」、熊本郷土料理を取り入れた「ふるさとくまさんデー」を実施し、生産者と連携した地産地消を推進する。
- 安全・安心な給食のため、衛生管理の強化、施設の適正管理に努める。

(3) 【実績】

	前年度	H29年度
実 績	1. 食に関する指導46回、見学8回、視察1回 試食会22回、親子料理教室2回 魚のおろし方等調理指導2回 2. 地場産食材納入品目38品 収穫体験学習1校実施	1. 食に関する指導42回、見学9回、視察1回、試食会22回 魚のさばき方調理指導1回、アレルギー対応食31人 2. 地場産食材納入品目42品、収穫体験学習1校実施 3・調理器具細菌検査2細菌×5か所×3学期 衛生害虫駆除 夏場5か月×2回、夏場以外7か月×1回 消毒保管庫等徹底した修理

■H29年度実績の説明 (目標に対してどの程度達成したか)

食育の推進として、食に関する指導、給食試食会を各学校で実施した。給食センターの見学、給食センターまつり、給食フォーラム等を実施して、給食センターを拠点とした食育を推進した。  
 また、アレルギー対応食や特別食、糖尿病児童生徒へ、毎日の献立の一人分の摂取栄養量一覧を配布し、病院治療の一役を担った。  
 地場産食材納入品目は42品目であった。また学校教諭、保護者等との市内視察研修において、現地を訪ね、食材を見たり、生産者の話を聞くことにより安全等が確認でき、さらに納入生産者と交流が深まった。  
 また、調理器具細菌検査や害虫駆除の回数を増やし衛生管理の強化を図った。

### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	今年度から調理器具細菌検査実施や衛生害虫防除の回数を増やす等、衛生管理を強化した結果、施設外で虫のシャットアウト、及び食中毒の予防ができ、安心安全な給食を提供できた。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	食に関する指導も27年度から20回減っており、学校において2クラスを1度にする等、工夫が見られた。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

#### 【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)  
 B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)  
 C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)  
 D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)

評価	点数
B	5点

### 4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> <li>食育の推進においては、栄養教諭が中心となり、学校と情報のやり取りをしながら食に関する指導を計画・実施し、子どもたちの食生活の自立に向けた支援を行っている。</li> <li>地産地消の推進においては、食材量、質、安定供給などいくつかの課題があり、生産・納入者が限定されている現状がある。</li> </ul>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>地産地消の推進課題である、地場産食材の生産者および食材の拡大が図れるよう、関係各所から情報を収集し、給食食材として納入できる生産者を発掘する。</li> </ul>					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>食育の推進では、栄養教諭を中心に、学校と情報のやりとりをしながら、食に関する指導を計画・実施し、子どもの食生活の支援がなされていることが素晴らしい。地産地消の推進においては、納入品目は42品目もあり、現地訪問や生産者の話を聞くことで、安全確認や、納入生産者との交流を図っている点が評価される。食育の拠点として、限られた職員数で多くの事業推進を行っているのに、無理しないよう、事業の更なる効率化もしくは、職員の増員を期待したい。</p>					

### 6. 総評

安全・安心な給食を提供するため、衛生管理の強化や地産地消の推進など、計画的に実施されているのが素晴らしい。給食センターまつりは、食への関心を高める工夫がなされ、年々充実したものとなっている。遠方の児童生徒の参加のためスクールバスの活用を検討してほしい。また、食材について現地視察を行い、今後の安定した供給のため、生産者の確保を慎重に進めてほしい。

政策事業名	06	人権教育推進事業
種別	1. 総合計画による重点事業    2. 市長マニフェストによる事業    3. その他の重要政策	

1. 政策の目的・目標（複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること）

水俣病問題をはじめとした様々な人権問題に対する理解と認識を深め、あらゆる差別の解消を促すため、気軽に学習できる機会を増やし、人権意識を啓発する。  
 人権問題というテーマについて「難しい」、「堅苦しい」というイメージを払拭するようなプログラムを実施し、広く一般市民に向けた参加体験型学習を中心に事業を展開する。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H29年度	増減
	2,276	2,413	137

(2) 【活動目標】

	前年度	H29年度
目 標	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 2) 水俣市内を中心とした出前講座の実施 3) 水俣市民のための水俣現地学習の実施	1) ヒューマンライツ・セミナー（中学生コース・一般コース）の実施 2) 水俣市内の企業へ向けた出前講座の案内・啓発活動 3) 水俣市民のための水俣現地学習の実施

■H29年度活動目標の説明（事業として何をするか）

参加体験型学習を中心とした、基本的な人権学習をテーマに住民が参加しやすい講座を展開し、新規の参加者、受講者を確保する。また、出前講座においては、市ホームページや企業向けメルマガなどSNSを活用した広報や、水俣市内の企業を訪問し出前講座の案内を行うなど、情報発信を積極的に行い、企業へ向けた人権啓発を図る。

(3) 【実績】

	前年度	H29年度
実 績	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 （中学生コース参加者9名、一般コース参加者延べ25名） 2) 水俣市内を中心とした出前講座の実施 （親子対象：18名） 3) 水俣市民のための水俣現地学習の実施 （参加者13名）	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 （中学生コース参加者8名、一般コース参加者4名） 2) 水俣市内の企業へ向けた出前講座の案内・啓発活動 水俣市内の企業への訪問・案内 3) 水俣市民のための水俣現地学習の実施 （参加者6名）

■H29年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

ヒューマンライツ・セミナー（中学生コース）では、昨年度熊本地震の影響で中止した南阿蘇村宿泊交流人権学習会を実施することができ、参加体験型などの基礎講座に加え現地学習も実施することで、受講生の理解度をさらに深めることができた。一般コースは今年度は1度だけ実施し、参加者は4名だった。また、水俣市内の企業へ向けた人権啓発活動の一環として、市ホームページの更新や、地域人権教育指導員と市内の企業を訪問するなど、情報発信を積極的に行った。



### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由				
○	想定以上に成果があがった	4	ヒューマンライツ・セミナーでは、市報や市ホームページへの掲載、チラシ配布を行い、受講者を確保することができた。				
	想定どおりの成果であった	2					
	想定を下回った	0					
	想定を大きく下回った	-1					
(2) 効率性		点数	理由				
○	大変効率よくできた	3	ヒューマンライツ・セミナーや出前講座の受講者や参加者がさらに増えるように募集方法を工夫していきたい。				
	概ね効率よくできた	2					
	効率がよくなかった	1					
	全く効率が悪かった	0					
【総合評価】							
A かなりの成果を上げ、今後も維持できるような努めるもの (7~6点)		<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>点数</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>4点</td> </tr> </table>	評価	点数	B	4点	
評価	点数						
B	4点						
B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)							
C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)							
D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)							

### 4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>課題) ヒューマンライツ・セミナーや出前講座等の参加者が固定化されてきているため、新規参加者・受講者の確保。また、水俣市内の企業への人権啓発活動。</p> <p>方向性) 引き続き参加体験型学習を中心とした市民が参加しやすく、分かりやすい講座を地道に継続するが、実施方法については工夫していく。企業への積極的な情報発信を行い、依頼内容に応じた参加体験型学習の提供をする。</p>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<p>新規の参加者・受講者を確保するため、市報や市ホームページへの掲載、チラシ配布を実施した。ヒューマンライツ・セミナーや出前講座がさらに充実するよう、地域の小単位での活動の一角に出席講座等が入られる方法がないか、見直しを行う。水俣市内の企業への人権啓発については、企業訪問し出席講座の案内を行い、依頼があれば依頼内容に応じた参加体験型学習の提供をしていく。</p>					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>様々な人権問題に対する理解と認識を深め、差別の解消のため本市の参加体験型学習の事業は人権意識の啓発にふさわしい。人権教育の推進に3つの活動目標を立てて、奮闘している様子が伝わってくるが、参加者の確保が今後の大きな課題と思われる。企業に向けた出席講座や水俣現地学習は事前に関心を注ぐ宣伝をして、多くの人が参加するように更に工夫してもらいたい。</p>					

### 6. 総評

人権教育は、デリケートな内容で、地道に継続することが大切な事業である。企業に向けた出席講座の実施はすぐには難しいが、指導員が出かけていだけでも啓発につながり、効果が上がるものと確信する。参加者の固定化を打破するためのわかりやすい講座、関心を引く周知方法など課題解決に向けての今後の取組に期待したい。

政策事業名	07	文化会館自主文化事業
種別	1. 総合計画による重点事業 2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策	

## 1. 政策の目的・目標（複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること）

目的：生の優れた舞台芸術等を鑑賞する機会を低料金で提供し、市民の教養を高め、文化向上を図る。また、単なる一方的な鑑賞にとどまらず、プロに学んだりジョイントコンサートを行ったりするなど、住民参加型の催しも積極的に取り入れていく。

内容：文化会館における公演の実施

芸術劇場…児童・生徒対象。小学生向けと中学生向けを隔年で開催する。

一般公演…様々な舞台芸術の中から、ジャンルに偏りがないように選定、1～2本の上演を行う。

## 2. 投入経費と指標

## (1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H29年度	増減
	2,078	4,339	2,261

## (2) 【活動目標】

	前年度	H29年度
目標	小学校芸術劇場（演劇） 宝くじ文化公演の実施	中学校芸術劇場（ミュージカル落語） 文化会館開館40周年記念・NHK公開番組収録の誘致 一般公演1本の実施

## ■H29年度活動目標の説明（事業として何をするか）

1. 中学校芸術劇場「三遊亭究斗ミュージカル落語」（有限会社オフセンター）  
開催日：平成29年12月14日（木） 対象者：市内中学校生徒
2. NHK全国公開番組収録「民謡魂 ふるさとの唄」（NHKを公演主体に共催）  
開催日：平成29年10月29日（日） 対象者：一般 応募はがきによる観覧申込
3. 「東儀秀樹ソロコンサート」（有限会社アプローズ・ケイ）  
開催日：平成30年2月18日（日） 対象者：一般 入場料：2,000円

## (3) 【実績】

	前年度	H29年度
実績	・小学校芸術劇場「星とあるいた白象」（有限会社ショーマンシップ） ・宝くじふるさとわくわく劇場I N水俣（自治総合センター助成事業）	・中学校芸術劇場「三遊亭究斗ミュージカル落語」（有限会社オフセンター） ・NHK全国公開番組収録「民謡魂 ふるさとの唄」（NHKを公演主体に共催） ・「東儀秀樹ソロコンサート」（有限会社アプローズ・ケイ） 開催日：平成30年2月18日（日） 対象者：一般 入場料：2,000円

## ■H29年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

- 1 中学校芸術劇場「三遊亭究斗 ミュージカル落語」（12月14日）市内中学生・引率者等、計614名が鑑賞。劇団四季出身の落語家・三遊亭究斗による落語とミュージカルを融合した「ミュージカル落語」。落語家のもつ豊かな表現力に触れ、笑いや前向きに考えることの重要性を感じてもらいきっかけとなる事業であった。
- 2 NHK全国公開番組収録「民謡魂 ふるさとの唄」公開収録（10月29日）文化会館開館40周年を迎えるにあたり誘致。熊本県の民謡や「2001 水俣ハイヤ節」が紹介され、地域の民謡を知ってもらう事業となった。本市を代表して袋小学校の児童等が出演した。応募はがきによる申込み制で、入場者は712名。
- 3 「東儀秀樹ソロコンサート」（2月18日）入場者数は820名、販売率99.8%、入場率96.0%。ほぼ満員であった。例年より早めにポスター等を作成、文化会館での他公演でチラシ折込み、と早めの広報活動をした。著名な方の公演とあって、チケットの間合せが相次いだ。狩衣を着た本格的な雅楽の演奏から、聴きなじみのある曲のアレンジ演奏など、「雅楽」を親しみやすいものであり、質のよい公演を低料金で提供できた。

### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	学校芸術劇場は、事業目標を達成できたと判断した。 NHK公開番組収録は、全国各地から応募が来て、観客の抽選が行われるほどであった。文化事業のみでなく、本市を知ってもらおう事業となったと思う。 東儀秀樹ソロコンサートは、販売率・入場率がいずれも想定（70％）以上であった。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	どの公演とも当日に大きなトラブルもなく無事に終わることができた。 NHK公開番組はテレビ制作の都合で事前情報に不足があったが、運営スタッフの協力により臨機応変に対応した。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

#### 【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるような努めるもの（7～6点）
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4点）
- C 早急の見直しが必要なもの（3～2点）
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～1点）

評価	点数
A	6点

### 4. 今後の方向性（課題と見直し）

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>学校芸術劇場の演目選定について、次世代を担う子どもたちに対して、会館へ足を運び、文化芸術に触れることの楽しさを感じてもらえるよう、また、豊かな心や感性を刺激し育てていくようなものを心掛ける。</p> <p>一般公演については、集客率や知名度等で公演を選定してしまうと、ジャンルに偏りや公演委託料が高くなるなどの弊害があるため、限られた予算の中で事業効果を高めるために、助成や補助金の活用や、効果的な広報活動など工夫し、多くの市民へ幅広いジャンル・質の高い文化芸術を提供していきたい。</p>					
<p>(2) 改善・見直しの具体的内容</p> <p>市民の関心が高いジャンルや時流に応じた演目を選定することで市民の教養を高め、文化の向上を図っていく。また、効果的な広報活動を行うことで集客率を高め、多くの市民が気軽に文化芸術を鑑賞できるようにしていく。次世代を担う子どもたちに対しても、豊かな心や感性を刺激し育てていくような演目を増やして、鑑賞の機会を提供し続けていく。</p>					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>水俣市は自主文化事業を、市民の教養を高め文化向上を図るために毎年実施している。29年度の演目は、どれも内容が充実し、素晴らしい成果であった。特に雅楽のコンサートは、早めの広報活動に取り組んだこともあり、入場者数が格段に増えた。地方都市にあって、質の高いものを、低料金で観賞できることは大変喜ばしいことなので、今後も鑑賞の機会を提供し続けてほしい。</p>					

### 6. 総評

優れた芸術を鑑賞することは、幼児や小中学生にとって、豊かな心や伝統を守る態度の育成につながる。またバラエティに富んだ演目を選定し、低料金で触れる機会を提供することで、水俣市民全体の文化への意識を高めることができる。今後も魅力ある演目を実施していくには、市の予算のみでは難しい面があるので、その他の文化機関の事業情報を積極的に収集し、活用することで文化に触れあう機会を提供してほしい。

政策事業名	08	みなまた環境絵本大賞事業
種別	1. 総合計画による重点事業 2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策	

1. 政策の目的・目標（複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること）

「絵本」と「環境」を組み合わせ、みなまたが思い、考え、行動し、本当に伝えていきたい「環境」を広く、分かりやすい形で発信するために「環境絵本」を出版するものである。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H29年度	増減
	2,061	4,428	2,367

(2) 【活動目標】

	前年度	H29年度
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4回みなまた環境絵本大賞作品出版</li> <li>創作童話ワークショップの開催</li> <li>みなまた子ども創作童話大賞の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4回みなまた環境絵本受賞作品出版。</li> <li>第5回みなまた環境絵本大賞作品募集・各賞決定。</li> <li>創作童話ワークショップの開催</li> </ul>

■ H29年度活動目標の説明（事業として何をするか）

- 第4回みなまた環境絵本大賞受賞作品の出版：受賞作品7作品（第1回～第4回の優秀賞4作品、第2回～第4回の市民賞一般部門の大賞3作品）を1冊にまとめた絵本の出版及び発表会開催。
- 第5回みなまた環境絵本大賞作品募集を8月から行い、各賞の決定を来年2月までに行う。
- 創作童話ワークショップを夏休み期間の7月下旬を中心に実施する。

(3) 【実績】

	前年度	H29年度
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4回みなまた環境絵本大賞受賞作品の出版及び発表会を次年度へ繰り越した。</li> <li>創作童話等ワークショップを小、中、高、一般の各ライフステージ毎に開催した。 開催日：5/27、7/21,23,24,26,27,28, 11/19,20, 2/26</li> <li>みなまた子ども創作童話大賞を実施した。 開催日：11/23</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>みなまた環境絵本大賞優秀作品集「たねをまいて」の出版 作品集の内容：10作品（第1回～第4回の優秀賞4作品、第2回～第4回の市民賞一般部門大賞3作品、市民賞こども部門大賞3作品） 出版発表会 日時：平成30年3月18日（日） 会場：公民館2階ホール</li> <li>第5回みなまた環境絵本大賞作品募集及び各賞の決定 発行元の西日本新聞社から、今後の環境絵本大賞受賞作品の絵本の商業出版は難しいとの見解をいただき、協議の結果、第4回みなまた環境絵本大賞の事業をもって終了することとした。</li> <li>創作童話ワークショップの実施。 講師：本木洋子先生（作家） 7/26 午前①、7/27 午前②、午後③、7/28 午前④、午後7/29 午前⑥、7/30⑦、8/1⑧ 村中李衣先生（児童文学作家）2/2⑨、2/3⑩ しろべこり先生（絵本作画家）3/17⑪</li> </ol>

■ H29年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

実績の2 「第5回みなまた環境絵本大賞作品募集及び各賞の決定」については、事業の実施を断念したが、それ以外の実績1及び3に関しては、当初の予定どおり実施できた。

### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由				
○	想定以上に成果があがった	4	当初予定していた「第5回みなまた環境絵本大賞作品募集及び各賞の決定」について、事業の実施を行わなかったため。				
	想定どおりの成果であった	2					
	想定を下回った	0					
	想定を大きく下回った	-1					
(2) 効率性		点数	理由				
○	大変効率よくできた	3	第4回みなまた環境絵本大賞優秀作品集「たねをまいて」の出版及び創作童話ワークショップの実施については、実施できたため。				
	概ね効率よくできた	2					
	効率がよくなかった	1					
	全く効率が悪かった	0					
【総合評価】							
A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)			<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>点数</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>2点</td> </tr> </table>	評価	点数	C	2点
評価	点数						
C	2点						
B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)							
C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)							
D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)							

### 4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>みなまた環境絵本大賞については、平成21年度から実施してきた。大賞受賞作品の絵本の出版については、これまで西日本新聞社の協力を得て行ってきたが、新聞社から、今後の絵本の出版は、商業的に難しいとの見解をいただき、行政内部で協議した結果、事業開始から第4回みなまた環境絵本大賞まで概ね10年の節目をもって終了することにした。</p>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<p>これまで、みなまた環境絵本大賞事業で実施してきた創作童話ワークショップ及びみなまた子ども創作童話大賞については、図書館創作活動事業として引き続き実施する。</p>					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>「みなまた環境絵本大賞事業」は環境モデル都市である水俣市にふさわしい事業であったが、第4回のみなまた環境絵本大賞の事業をもって終了することになった。その成果は本市の大きな財産と考えられる。環境絵本大賞の受賞作品の絵本は今後も大いに活用してほしい。また「創作童話ワークショップ」と「みなまた子ども創作童話大賞」は今後も実施されるということなので、継続して力を注いでほしい。</p>					

### 6. 総評

著名な作家たちから直に学べる創作童話ワークショップ等の事業は、確実に定着し、児童生徒の想像力や書く力の育成に貢献した。みなまた環境絵本大賞事業は非常に意義があったが、絵本の出版は商業的に難しいとの見解から終了となり残念である。今後、形は変わっても、市民の読書活動及び絵本童話の創作活動の推進は継続してほしい。

政策事業名	09	公民館自主事業
種別	1. 総合計画による重点事業 2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策	

1. 政策の目的・目標（複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること）

公民館自主事業（市民教室、いきいき教室、子ども教室、生涯学習フェスティバル）を実施して市民の学ぶ機会を提供する。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H29年度	増減
	1,585	2,088	503

(2) 【活動目標】

	前年度	H29年度
目標	公民館自主事業 （市民教室、いきいき教室） の継続及び活性化を図る。	公民館自主事業 （市民教室、いきいき教室、子ども教室、生涯学習フェスティバル） の継続及び活性化を図る。

■H29年度活動目標の説明（事業として何をするか）

市民教室

- ・15～20講座、受講者150人程度の教室を開催する。
- ・同種の講座でもより初級者向けの講座、一般的な講座を開催して、多くの受講生の参加を図る。

いきいき教室、子ども教室、生涯学習フェスティバル

- ・旬の話題や広い対象の層が興味を持つテーマの講座を開催する。

(3) 【実績】

	前年度	H29年度
実績	市民教室:17教室192人の教室を実施。 いきいき教室:旬の話題や要望に応じた教室を6回実施し、169人の受講者があった。 生涯学習フェスティバル:延べ1,128人の来場者があった。	市民教室:20教室、延べ3,037人。 いきいき教室:5回実施、158人の受講者。 子ども教室:1回、78人。 生涯学習フェスティバル:延べ1,220人の来場者。

■H29年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

市民教室:減少傾向であった開講数・受講者数を増加させることができた。

いきいき教室:開催数及び受講者とも減少したが、スマホの初心者向け講座等の新しい講座を開催した。

子ども教室:動く環境教室(熊本県環境センター出前講座)を実施、78人受講。

生涯学習フェスティバル:軽食コーナーを1日目から開設した他、ステージの一部を1日目にも開催し、体験コーナーの数を増やすなど、展示だけで参加者が少なかった1日目の開催を充実させた。また、新聞折り込みチラシによる宣伝を初めて行った。結果、減少傾向であった参加者数が昨年を上回る結果を得た。

### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	市民教室、いきいき教室、生涯学習フェスティバルともに年々参加者が減少傾向にある中、前年度以上に活性化が図れた。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	事業計画により適切で効率的な事業実施を行った。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

#### 【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)  
 B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)  
 C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)  
 D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)

評価	点数
B	4点

### 4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>「市民教室」は、開講数・受講者数は増加したが、更なる増加を目指す。            市民教室を継続していくためには、新しい講座の開講と新しい受講生の参加により活性化を図ることが必要であるが、平日の昼間の開講が多く、働いている人や若者等の受講が難しい状況である。</p>					
<p>(2) 改善・見直しの具体的内容</p> <p>「市民教室」は、新しい講座の開講や土、日曜日、夜に開講ができる市民教室を取り入れていく。            「子ども教室」など子ども向けの講座を引き続き実施する。「生涯学習フェスティバル」は、年々参加者が減少する中、1日目にもステージを開催等、多くの参加者を得るような更なる創意工夫が必要である。なお、ステージについては、昨年度、フェスティバル準備委員会会議においても、次年度開催時は1日目と2日目の出演希望を募ることで説明済み。</p>					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>「市民教室」及び「いきいき教室」は市民の教養や知識・技術等を高める生涯学習として大きな役割を果たしている。「市民教室」は前年度より開講数・受講者数は増加したが「いきいき教室」は開講数・受講者数とも減少した。働いている人(若い世代)が参加できるよう、また男性の受講者が増えるよう、受講者確保のための有効な方策を練ってほしい。</p>					

### 6. 総評

市民教室には休日や夜間の開催、また児童生徒が参加できる企画がほしい。いきいき教室は、高齢者向けのイメージが強く、平日開催のため参加者が限られている。土日開催するなど工夫して、誰でも参加しやすくしてほしい。また地域の公民館への出張のようなことができないだろうか。子どもから高齢者まで「生涯」にわたる学習の提供の場として、活気がでることを期待したい。

政策事業名	10	生涯スポーツ活動及び競技スポーツ活動の推進
種別	1. 総合計画による重点事業	2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策

1. 政策の目的・目標（複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること）

スポーツを通じて、地域内外の人々との交流を活性化するとともに、気軽にスポーツを楽しむ事ができる環境づくりに努め、誰もが生きがいをもって明るく元気に暮らせるまちづくりを進める。  
 また、水俣競り舟大会、市民体育祭、市民駅伝等、地域住民がともに取り組み、楽しむ体育行事について、時代に即した見直しを図りながら、次の世代に伝えていくことで、世代間交流を図り、地域の一体感を醸成する。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H29年度	増減
	31,975	42,049	10,074

(2) 【活動目標】

	前年度	H29年度
目 標	小学校運動部活動の社会体育移行 生涯スポーツ活動及び競技スポーツ活動の推進 スポーツ拠点の整備と充実	・小学校運動部活動の社会体育移行 ・競り舟 FRP 船建造 ・生涯スポーツ活動及び競技スポーツ活動の推進 ・スポーツ拠点の整備と充実

■H29年度活動目標の説明（事業として何をするか）

- ・小学校運動部活動については、市の基本方針策定を行い、期限となる平成30年度末まで計画的な社会体育移行への移行を行う。
- ・現在使用している木造の競り舟が老朽化しているため、安全性を考慮し FRP 船の建造を行う。
- ・スポーツの関り方には、する・観る・支える等様々である。イベント開催には参加者やチーム、企業等からの人的支援や協賛等と併せて、市民や関係団体等との協働のあり方について見直しを図る必要がある。
- ・多くの体育施設で経年劣化が進行しており、計画的な維持管理等を行う。

(3) 【実績】

	前年度	H29年度
実 績	・小学校運動部活動の社会体育移行 ・生涯スポーツ活動及び競技スポーツ活動の推進 ・スポーツ拠点の整備と充実	・小学校運動部活動の社会体育移行 ・競り舟 FRP 船建造 ・生涯スポーツ活動及び競技スポーツ活動の推進 ・スポーツ拠点の整備と充実

■H29年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

- ・小学校運動部活動社会体育移行に関しては、平成30年度末までの期限付き事業であるが、これまで業務の進捗が思わしくなかった。しかし、平成29年11月に市の基本方針も策定でき、各小学校等関係機関との連携協議を図りながら、計画的に業務が遂行できており、大きな進捗が図れた。
- ・FRP 船の建造も年度内に完了することができた。
- ・体育施設は多くの施設で経年劣化が進行しているため、計画的な施設の維持補修・更新を行うとともに、資産の有効活用や効率的な維持管理等を行う必要がある。



### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市主催行事や体育施設の管理等例年通りの事業については、一定の成果を上げている。</li> <li>・小学校運動部活動の社会体育移行については、平成31年度から完全移行しなければならないという期限付きの事業であり、市の方針が定まり、具体的な計画や取組みが実施できた。</li> <li>・競り舟 FRP 船建造も予定通りに、事業を進めることができた。</li> </ul>
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会体育移行など例年のルーチンではない事業について、社会体育移行専属の臨時職員（コーディネーター）1名雇用並びにスポーツ推進係の臨時職員1名、計2名の臨時職人の雇用がなされ、これまでよりスムーズに作業等に取り組めた。</li> </ul>
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

#### 【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6点）  
 B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4点）  
 C 早急の見直しが必要なもの（3～2点）  
 D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～1点）

評価	点数
B	5点

### 4. 今後の方向性（課題と見直し）

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度末までの小学校運動部活動の社会体育化に向け、本市の基本方針に基づく取組みを継続的に実施する。</li> <li>・市主催事業については、これまで通り市民のニーズに合った企画運営を行うと共に、財源確保に努めながら、各事業の発展を目指す。</li> </ul>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校運動部活動の社会体育化については、平成30年度末が期限となっていることから、来年度も継続して事業を行っていく。</li> <li>・平成29年度から平成31年度の3か年継続事業の2か年目にあたるため、競り舟大会をグレードアップする。大会を更に盛り上げ「スポーツで明るい豊かなまちづくり」の推進を図り、本市の活性化に繋げる。</li> </ul>					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
--------	----	----	-----	----	----

小学校運動部社会体育移行については、平成29年11月に基本方針が策定され、関係機関との連携がなされ、専属の2名の臨時職員も配置され、大きく前進できた。平成31年度からスムーズに社会体育として実施できるよう、引き続き真摯に取り組んでほしい。

### 6. 総評

様々なスポーツ行事を開催し、体育協会等の各団体の協力を得て、円滑な企画運営を行い、水俣市の活性化、市民の体力づくりに大きく寄与している。心配された小学校運動部活動の社会体育移行も、見通しが立ってきた。その他、施設整備の面から、総合体育館は他地域からも訪れるスポーツ交流の場であるが、子どもたちが不慣れな和式トイレが大部分であるため汚れていることが多く、清掃人員の確保または洋式トイレへの改修工事を検討してほしい。

